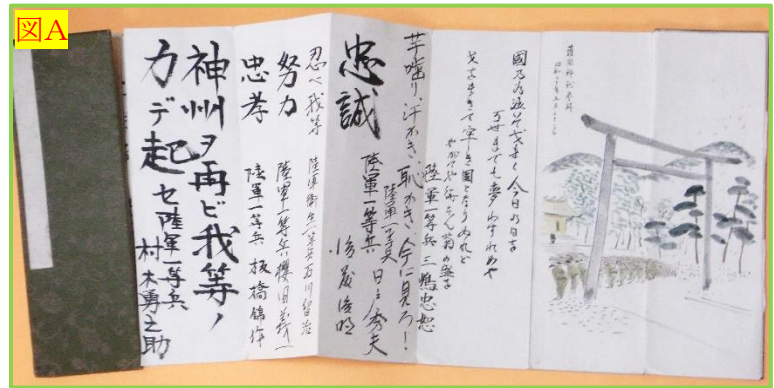


日本の戦争 23

中庵少尉の太平洋戦争



昨年「日本の戦争シリーズ」第11～21回に紹介した支那事変の「水と兵隊」12編。それを記した中庵少尉(小子の父)は、太平洋戦争末期の1945(昭和20)年にも応召していた。満46歳2か月。高齢の臨時召集であった。記録に残る男の平均寿命は1935年が49.62歳、47年が50.06歳。45歳の平均余命は約22年半。現在ならば、還暦後の60歳台の召集とも言えよう。



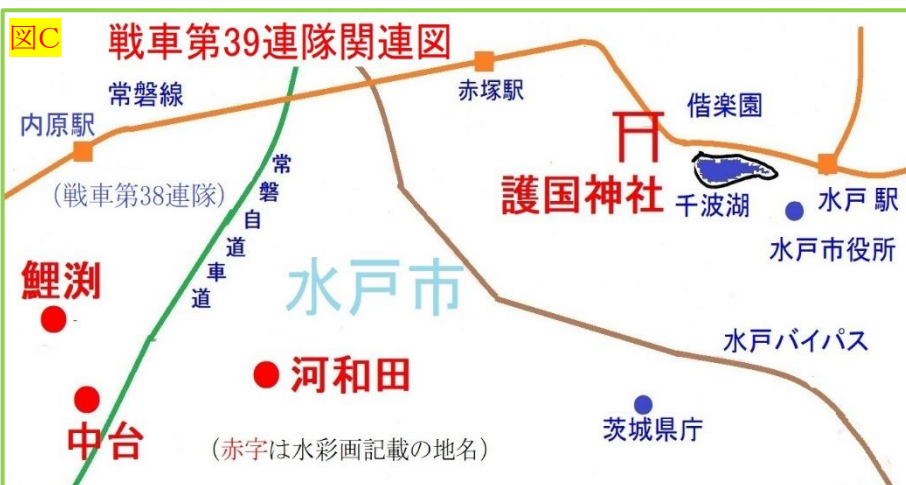
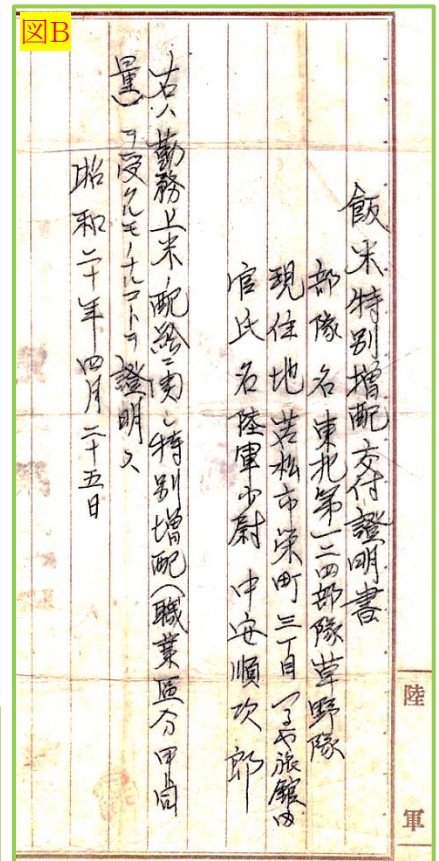
遺品2点 & 軍歴証明からの再現

わが家に残る太平洋戦争の主な遺品は図Aの「折帖」(注1)と、図Bの陸軍発行「飯米特別増配交付証明書」の2点である。

① 折帖は、同年5/13日の召集入隊(次頁・絵①)に始まり、護国神社参拝→築壕作業→復員部隊会食→復員式などの水彩画8点が描かれている。さらに敗戦を受け、兵隊らが当時の気持ちや感情を端的に書き連ねている。大半が家庭持ちの中年の予備・後備役と思われる。そのためか、日清戦争後に露・独・仏3国から遼東半島返還を強いられ、日本を覆った「臥薪嘗胆」的な気持ちが紙背に感じられる。彼らが駐屯したのは水戸市の西側、茨城県東茨城郡鯉淵村(現水戸市)である。

図Cに関連略図を載せた。

② 図Bの飯米特別増配交付証明書は、仙台管区の東北124部隊が4/25日発行したものだ。中庵少尉の現住地は若松(現会津若松)市の「つるや旅館」。現在もホテル営業中という。今回、広島県庁保存の父の「軍歴」開示を請求し8/15日に郵送で落手した。初めて124部隊に召集され、水戸市郊外の「戦車第39連隊」に転属したことが判明した。次ページへ



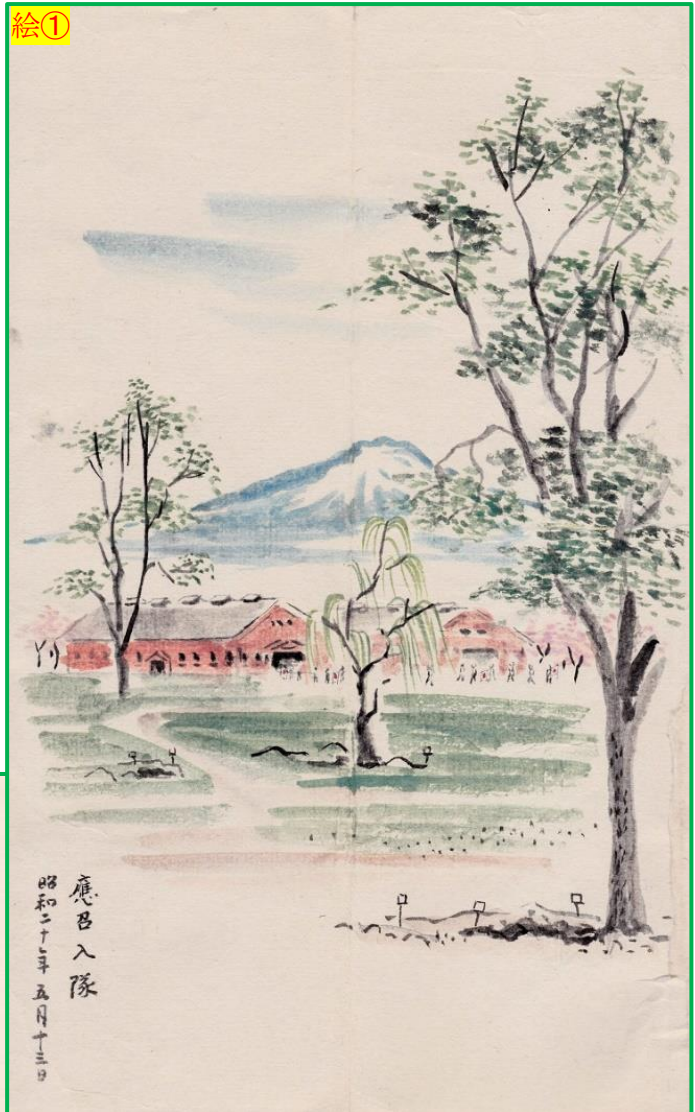
注1) 折帖は、横長の和紙を蛇腹状に折りたたんだ冊子。表紙と裏表紙は厚紙や薄板を布張りしてある。経典や書道の手本が書かれたものは、折本と言われる。中庵少尉の折帖は幅8.5cm、縦28.5cm。

兵隊が画いた戦車 39 連隊

③ 絵①は最初の水彩画。「応召入隊昭和 20 年 5 月 13 日」の日付がある。中央に、秀麗な山が描かれている。中庵少尉の軍歴を紹介しよう。軍歴① 4/25 日、仙台管区歩兵第 2 補充隊に臨時応召。同日第 1 中隊に臨時配属。これは前頁図②の日付と一致する。第 1 中隊＝草野隊なのだろう。軍歴② 同年 5/11 日に会津若松を出発。翌 12 日、第 39 戦車隊に合流し中隊付となる。同 15 日編成完結。軍歴③ 5/30 日、部隊移駐のため盛岡発。同 31 日、茨城県東茨城郡鯉渕着。次頁の絵③の「鯉渕村河和田移駐 5 月 31 日」と一致する。だが会津若松から盛岡へ？ 絵①②と軍歴には、戦車隊との合流地が記されていない。絵①の山は、岩手山か筑波山か？ 護国神社参拝は盛岡か水戸か？ 図Cの護国神社は水戸を想定した。

④ 図 D の 4/6 日 に注目されたい。第 39 戦車連隊調べるうち、防衛省防衛研究所に陸上自衛隊富士学校編「戦車部隊略史」を見つけ閲覧。陸軍が同日、国内に 17 の戦車連隊を創設していた。→次ページへ

絵①



絵②

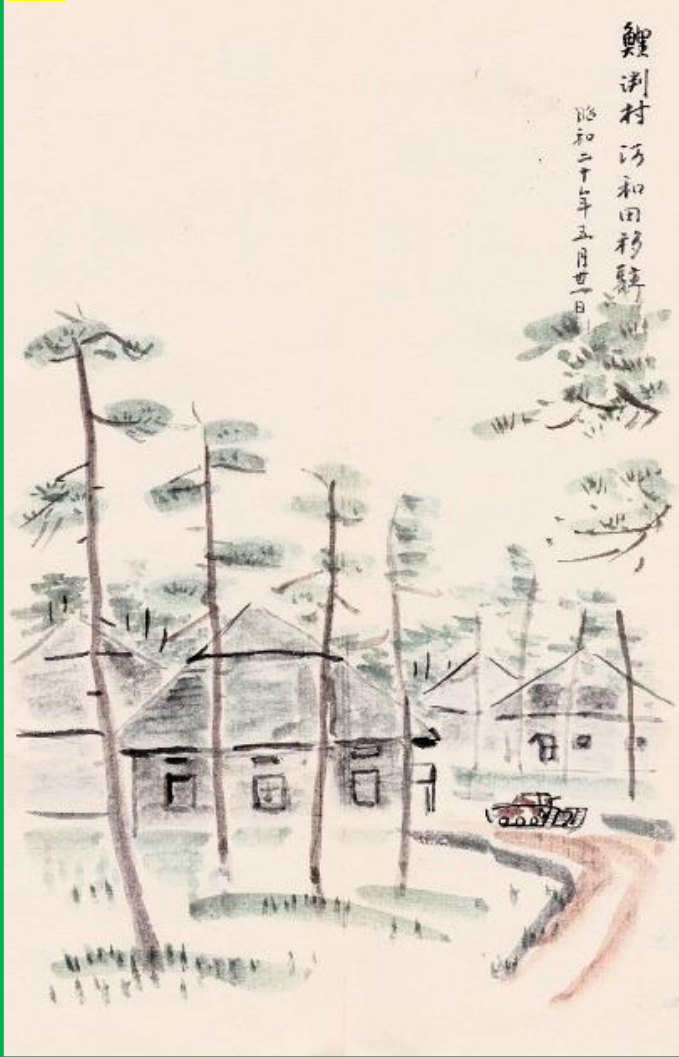


図 D 戦争末期の主な状況 I

月日	1945 年前半の戦争推移
3/09	東京大空襲。
4/01	米軍、沖縄本島に上陸
4/05	小磯内閣総辞職→4/07 鈴木貫太郎内閣成立
4/06	陸軍、国内に戦車連隊を 17 連隊創設。
4/25	中庵少尉、仙台管区第 2 補充隊に応召、同日第 1 中隊(草野隊)に配属。(軍歴より)
5/07	ドイツ無条件降伏→5/09 日本、戦争遂行表明
5/11	中庵少尉、戦車第 39 連隊転属のため(会津)若松出発。同 12 日、第 39 連隊に転属、同日中隊付。同 15 日、編成完結。
5/31	第 39 戦車連隊、鯉渕村に移転。
6/08	御前会議で「速やかに皇土(本土)決戦態勢を強化し皇軍の主戦力を之に集中す」を決定。
6/21	沖縄守備隊全滅(注:沖縄慰霊の日は 23 日)
6/22	天皇、首相・陸・海・外相らに終戦方策を指示。

戦車は小隊 2 台か 中隊 10 台か？

絵③



⑥ 絵③は、移駐した 5/31 日の河和田駐屯地である。戦車が 1 台見える。中庵少尉こと父は言った。「戦車隊だが戦車は 2 台だけだった」。前記の戦車部隊略史は 1 中隊(3 小隊)で 10 台。人員は軽戦車中隊が本部や整備隊を含め約 330 人。中戦車中隊が約 355 人。絵②③や次号掲載分も、兵隊画家が実態を描写していると感じる。中庵少尉の「戦車 2 台…」も、小隊でなく中隊とも考えられる。嘘がまかり通り、兵器工場は軒並み空襲を受けて、部品不足のうえ出勤率は 20～30%に低下していたからだ。私は中学生の頃、日比谷で展示されたゼロ戦を見、尾翼の裏に新聞紙を張った粗末な機体を、今でも忘れることが出来ない。

⑦ 絵④は 6/13 日の「お祓式」。入隊から 1 か月、宿舎の新築・整備などに時間を割き、その合間に厄払いと武運長久を祈ったのだろう。次号へ続く

前頁から) 陸軍は 1925(大正 15)年から 45/8/15 日まで国内外に 52 の戦車連隊を創設していた。その 1/3 が、本土決戦用の 45/4/6 日創設(改変を含む)である。同日、鯉淵村の隣村内原(図 C 参照)や盛岡にも戦車連隊が誕生している。その 20 日後、中庵少尉は召集を受け、仙台管区第 2 補充隊に応召した。だが会津若松からの本隊合流地は不明だ。

⑤ 軍の召集は本籍地から行われた。今回の軍歴開示請求で判ったことは、当時、各県庁に軍歴担当者があり、部隊から報告の個人の軍歴を記録していたという。広島は原爆の投下で、焼失した軍歴もあるとのことだった。中庵少尉は復員したが、軍歴の復員欄は空白である。次号に掲載を予定している水彩画は 9/13 日復員。戦車部隊略史は 9/07 日。通信状況が悪かっただけに、軍歴の方が正直である。前記「盛岡発」なども聞き違いや記入間違いも考えられる。✓

絵④

